

海外大学図書館訪問記 ～アメリカ ロチェスター大学とジョージア工科大学～

資料の電子化が進む現代において、新たに発生する利用者のニーズをどのように把握し、その把握したニーズにどう応えているかを調査するため、10月に、アメリカにある2大学を訪問しました。

1. ロチェスター大学 (University of Rochester) ニューヨーク州ロチェスターにある私立大学

ロチェスター大学では利用者ニーズ把握のため、人類学者を起用し2003～2008年に様々な調査を行いました。今回は、その調査結果をもとに改装された Gleason Library を紹介します。

右の写真以外にも、より静かな環境を提供する「Quieter Study Room」や、ホワイトボードやスクリーンが設置されたグループ用のスタジオなどがあります。これらは全て学生の「1つのエリアに静かな場所、くつろげる場所、友達と議論できる場所といった様々なスペースが欲しい」といった要望を実現したものです。

現在ロチェスター大学図書館では学生に対して2回目の調査を行っています。今後、この図書館がどのように進化していくのか大変興味があるところです。



簡易な壁で囲まれた個人や少人数の学習のためのスペース



壁一面の大きなガラス窓



映画鑑賞や研究発表の練習が可能なシアタールーム

2. ジョージア工科大学 (Georgia Institute of Technology) ジョージア州アトランタにある州立大学

ジョージア工科大学では、多くの学生からの意見をもとに10年間にわたって図書館の改装を行ってきました。現在では、学習や研究の場所としての機能を重視した3つのエリアを提供しています。



に疲れた学生が、寝転んでくつろいでいます。

Clough Commons

1・2年生のための研究室やサポートデスク、マルチメディアスタジオ、コミュニケーションセンター等を設置。人工芝が敷かれたサンルーム



West Commons

見通しの良い広間に、約100台のパソコンを設置。利用者は好きなパソコンを、いつでも自由に使うことができます。

East Commons

可動式の机や椅子、屋根付きのパーティションを設置。1人で自習することも、大人数でグループ学習を行うこともできます。



今回訪問した2大学とも、利用者の意見や要望を反映した機能・サービスが提供されており、改めて利用者が何を求めているかを適切につかむことの必要性を感じました。

金沢大学附属図書館をより良く利用してもらうために、今回見学したことを活かしていきたいと思えます。

*この調査は平成24年度国立大学図書館協議会海外派遣事業等により行われました。詳細な報告書は、「金沢大学学術情報リポジトリ：KURA」への掲載、及び「大学図書館研究」への投稿を予定しています。

(情報企画課 雑誌・電子情報係 川井奏美
情報企画課 図書情報係 野田晶子)